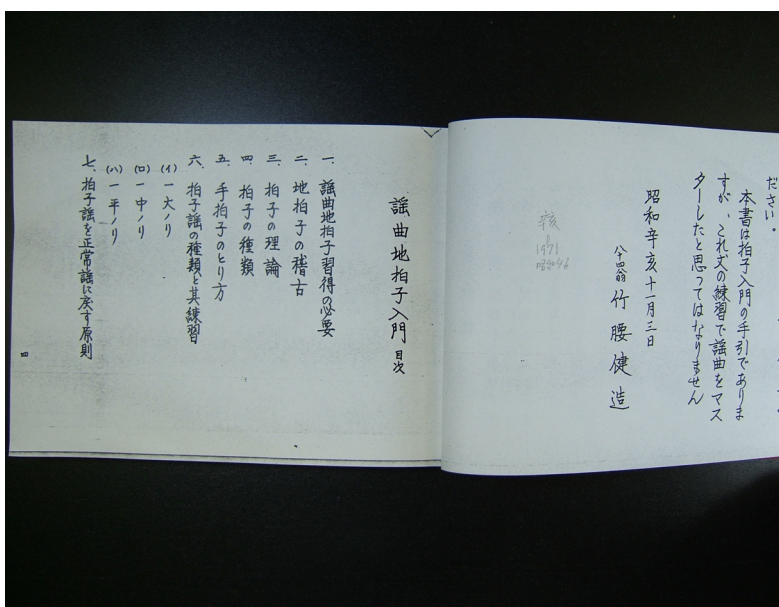


## 竹腰健造 『謡曲拍子入門』

著者は、「拍子謡と云う一般に通用しない謡を「十分に習練した後に、拍子謡から脱却して正常謡に戻る」という道筋を、教程の理想としてかかげる。平ノリからではなく大ノリから入るのも、その理想にそった順序と言える。拍子謡を「正常な謡に戻す」ための方法として著者は、「つきつかず」「三ツ地謡／ツツケ謡」「呼吸の順逆」の三点をあげている。呼吸の順逆は他の著者には見られない独自の理論である。ちなみに、「当るヤ、当るヤヲハ」をそれぞれ「ケシヤ、ケシヤヲハ」と呼ぶのは珍しい。



標題 内題…

標題紙…

奥附…

その他…謡曲地拍子入門（目次）、謡曲拍

子入門（題簽）

著者 奥附…

その他の場所…竹腰健造（はしがき・題

簽

出版 版次…

出版地…

出版社…

出版年…

その他の場所…はしがき 昭和46（1971）

形態 冊数…一冊 頁数…九四丁

寸法…14×21（cm）

状態 写本版本の別…ゼロックス版本 現物複

写の別…現物

備考 『能楽拍子稽古教程』と合綴。